

# 婚活応援企画

## 《第三回》

《第三回テーマ：自分を高めて、サービスを上手に利用しよう》

「婚活応援企画」3連載は今回が最終回。最近の結婚事情や婚活サービスの内容などはざっとつかめたと思う。問題はどんなチャンスが巡ってきたか、それに見合うだけ自分を磨いているかということだ。外面は比較的簡単だが、重要なのは内面を磨くこと。これが充実してこそ理想の相手に巡り会えるのではないだろうか。婚活サービスを利用すれば、さらにチャンスは広がることだろう。最後に相談所の上手な利用法、見極め方を付け加えた。

婚活サービスはますますヒートアップしているが、まずは自分をしっかり見つめ直すことから始めることが肝心。いくらチャンスが巡ってきたとしても、自分を磨きを怠ってはいけません。話もまとまらない。内面強化の方法はいろいろあるが、一般的には常に目標を持つ、自信を持つ、事に当たる、精神的に余裕を持つ、健康でいること、知識の吸収、積極的に人間関係を築くなどが考えられる。口でいうのは簡単だが、これらはいずれも強い意思が必要になる。

外面磨きはまず身だしなみからだ。ただ飾るのではなく清潔感が大きなポイントになる。さらに「最低限のマナーは必要ですね」と日本ライフデザイナーカウンセラー協会の原口博光事務局長がアドバイスする。たとえば見合いやデートの場合、相手を上座に座らせるかそれとも下座で良いのかということだけで結果が変わってしまうという。「見合いは受験と同じですね。面接は減点式なので、減点が多すぎれば願いはかないません」と話す。

自分を磨いたあとは結婚相手紹介サービスの中身を調べてみよう。上手につきあうための確認ポイントは①パンフレットやホームページに金額・内容が明示されているか（実際にいったら全く違っていたということがないように）②契約書が結ばれ

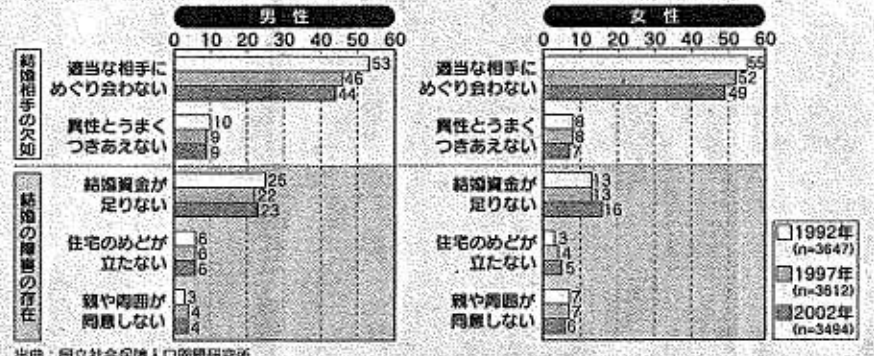


ているか（内容も法律に則しているか、口約束でなくて書面で交わされるか）③個人情報がかかり保護・管理されているか。自分が渡した書類がちゃんと管理されているかを聞くなど。ここでも相手任せにせず、自分がどんな結婚をしたいのかをしっかり持って伝えることが大事。結婚できない男女の中には、自分に合う人はいないと思いついていて、実は十分結婚相手になる人物なのに互いに気付かないだけだと原口氏は指摘する。サービスを受けることで自分のことや現実に気付くことが多いという。いくら初婚年齢が高くなっているといっても、約9割の人は結婚を望んでいる。条件や外見で選ぶのも結構だが現実を目を向けてみよう。そして最後に決断を下すのはあくまで本人だ。

原口氏は9月に、男の本音でかいた婚活本「毒男の婚活」を講談社から出版する。

### なぜ結婚しないのか

日本ライフデザインカウンセラー協会では、92年から5年ごとに結婚しない独身男女にアンケート調査を行っている。その結果を結婚相手がいない理由と結婚に障害となっている事由をまとめたのがこの表。結婚相手の欠如については「適当な相手に巡り合わない」「出会いはあるのだが、結婚を決断できる相手と巡り合わない」と思っている人が圧倒的に多いことがわかった。02年の調査では男性44%、女性は49%。10年前の92年は男性53%、女性55%で少しは減少しているものの、相変わらずトップを占めている。続いて「異性とうまくつきあえない」の順。結婚の障害になっているのは、男女とも「結婚資金が足りない」と経済的な理由を挙げた。男性の2位は「住宅のメドが立たない」でこちらも経済的な悩みをのぞかせている。女性の2位は「親や周囲が同意しない」ことを挙げている。



◆原口博光氏  
元経済産業省サービス産業課係長。結婚情報サービス産業の管轄担当で業界実態を把握している。07年1月に学識経験者らとNPO法人日本ライフデザインカウンセラー協会（JLCA）を設立。現在は事務局長を務める。婚活だけでなくライフデザインの重要性を訴える。